

米原小学校の 食育活動が大賞に！ (2月10日)

県内の小中高校や幼稚園、保育園で特色ある食育活動を実践する学校を表彰する「湖っ子食育大賞」において、食育活動を子どもだけでなく保護者・農協・地域の健康推進員のみなさんと協力・連携し取り組んだ、米原小学校の活動と成果が評価され大賞に輝きました。

これを受け、2月10日、伊藤校長と指導にあたった山田栄養教諭が、



泉市長へ受賞の報告。泉市長からは今後も積極的・継続的な取り組みがおこなわれるようエールを送りました。

先人の知恵を学びながら… 「雪室」仕上げ作業 (2月19日)

2月19日、上平寺の川戸谷で、地元の歴史愛好家グループ「京極氏戦国浪漫倶楽部」によって、雪室づくりの作業が行われました。

雪室は、自然エネルギーの雪をためる冷蔵施設で、昨年秋にグループのみなさんが深さ2メートルの遺構を掘り返し、石垣を積み直して復元。今回は、大きな穴に積もった雪の上にさらに雪を積んで踏み固め、かや



ぶきの屋根をかける作業が行われました。

そして、最後の仕上げに、雪室に横穴を掘って野菜やお酒などを貯蔵。参加者のみなさんは大汗をかきながら大変な思いで作業をされていましたが、「雪深い地域ならではの先人の知恵ですね。春になって掘り起こすのが楽しみ」と、語っておられました。



この冬は年末の寒波に続き、2月にも大雪に見舞われました。市民の皆さんも除雪や屋根の雪下ろしが大変だったと思いますが、特に奥伊吹では2mを超える積雪のなかでの生活にいろいろと苦労されたこととお察しいたします。

本市の今年度の除雪費用も1億円を超える見込みで、雪は私たちの生活に大きな負担となっていますが、一方で、春から夏にかけて水を蓄える水源としての機能を果たし、琵琶湖に注いで多くの生き物の命を支えています。

また、市内のスキー場では今年も雪に恵まれ、多くのスキー客でにぎわっています。ほかにも都会から多くの方が深い雪の下で甘味を増す大根などの野菜の雪掘り収穫体験に参加され、修学旅行生も民家ホームステイで雪の暮らしを楽しんでくれました。

さらに、上平寺で復元された雪をためる冷蔵施設の雪室には、雪の中に野菜などを埋めて保存し、初夏に掘り出して楽しむ企画も予定されています。雪室の雪が夏まで残って、市内の郵便局で取り組まれている「親子の絆ゆうパック」として、都会に住む子どもや孫へ野菜と一緒に雪も届けば素晴らしい贈り物となることでしょう。

このように雪は様々な喜びや楽しみをもたらすものでもありますので、プラス思考で米原市の貴重な資源として楽しみながら活用していきたいものです。

米原市長 泉峰一

(3月1日記)